

平成 25 年度 第 1 回中部防災技術専門委員会

議事概要

1. 日 時 平成 25 年 8 月 30 日 (金) 10:00~11:30
2. 場 所 中部地方整備局 4 階大会議室
3. 出席者

[委員]	◎	やしま 八嶋	あつし 厚	岐阜大学 理事・副学長
		なかの 中野	まさき 正樹	名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 教授
		まえだ 前田	けんいち 健一	名古屋工業大学都市社会工学(環境都市系プログラム) 教授
		こばやし 小林	ともなお 智尚	岐阜大学大学院工学研究科環境エネルギーシステム専攻 教授
		たなべ 田邊	きんや 謹也	一般社団法人日本応用地質学会

※敬称略、◎は委員長

4. 議 事

- ①中部防災技術専門委員会の設置について
- ②国道 4 1 号飛騨市神岡町船津落石災害について

<委員からの主な意見>

- ①中部防災技術専門委員会の設置について
 - ・委員会の設置については了承。
- ②国道 4 1 号飛騨市神岡町船津落石災害について
 - 【落石発生現場及びその周辺斜面の現地調査について】
 - ・不安定な浮石（飛騨片麻岩）の背後にある表層に流水・地下水が集まりパイピング現象を伴う崩壊が発生。
 - ・崩壊した岩塊は非常に硬質であり、植生があまりないガレ場を割れずに滑落。
 - ・浮石や転石などを追加調査した結果、表層崩壊が一原因。
 - 【落石発生現場及びその周辺斜面の対策について】
 - ・安定状態の対策について
 - (a)短期・中長期を 1～3 の安定状態により区分し、安定状態 1 より緊急・短期で早期対策を講じることについては了承。
 - (b)中長期対策案について
安定状態 2 及び 3 の全ての浮き石や転石、表層崩壊の危険な斜面に対して広範囲な対策をすることは相当困難。4 1 号のルートを変更することも視野に入れた検討が必要ではないか。
 - ・緊急対策工法について
 - (a)ワイヤーロープのためのアンカーの位置決めが重要。
積雪重量によってアンカーが抜けることがあるため岩接着工の検討も必要。
 - (b)表層崩壊箇所は、谷地形で遷急線などの地形で抽出。今後の絞り込みとして、表土深さの把握と道路まで沢が連続しているかどうかの条件設定が必要。
 - (c)短期・中長期を 1～3 の安定状態に区分しているが、区分にグレーな部分もあるために安全側に判断すること。
 - ・工事中の安全対策について
工事に際しては、急峻で危険な箇所での施工になるため、センサーなどを用いて作業員の安全や工事中止を視野に入れた工事中の安全管理を検討してほしい。